

## ■三重町駅前通りの歩行者天国及びまちづくりについて

豊後大野市役所 建設課 佐藤康宏  
まちづくり推進課 古庄英之

### 1 はじめに

豊後大野市は、2015（平成17）年3月に旧大野郡5町2村の合併により発足した市で、中心部となる旧三重町は、大分市から南へ約35kmの場所にある。



図1 豊後大野市位置図

JR 豊肥本線が東西に通る市内には、JR 駅が6駅存在し特急停車駅も2駅存在する。その中で中心となる三重町駅は、南西側に商業・業務地、市役所など行政の中心的機能などが集積し、周辺には住宅市街地が形成されている。また駅北側の高台にスポーツ施設群が整備され都心部からのスポーツ合宿も盛んであり、さらには県道三重新殿線など幹線道路に近接することから車の通行量や大分市内方面への通勤通学者、飲食など歩行者も多く見られる。一方モータリゼーションの進展に伴い、人の移動が公共交通機関から自家用車へ変遷していく中、駅東側500

mの位置に大分市と宮崎市をつなぐ国道326号が開通したことに伴い、大型店が沿道に相次ぎ出店したことから、駅前通りの賑わいは年々減少している。このことから、駅周辺にはにぎわいを取り戻すとともに、交通ハブとしての都市機能を活かした観光・情報発信の拠点づくりなど豊後大野市の玄関口に相応しいまちづくりが望まれている。

### 2. 三重町駅前通りの現状と課題

三重町駅前通りは近隣に設置された小、中学校及び高等学校への通学路となっているが、道路幅が狭く交通量も多いため、予てより安全対策を求める声が市に寄せられていた。この道路整備については、1973（昭和48）年に都市計画道路駅前線<sup>1)</sup>（計画道路幅員 W=15.0m）として計画決定して以降、長期未着手となっていた。特に三重町駅から三重郵便局までの間、延長約200mの区間は、道路幅員7.5mの道路に商店が軒を連ねていたことが、事業化を大きく遅らせる原因の一つともなっていた。

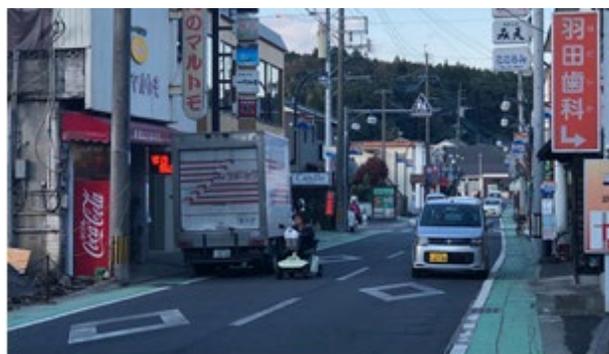


写真1：駅前通りの様子

2012（平成24）年度に当該区間の街路整備事業化に向けた調査を行ったところ、最大で事業費約37億円、移転家屋約90戸という調査結果が出た。この

調査結果について、県と市とで協議した結果、このまま街路整備を行えば、これまで駅前周辺で行われてきた商業活動がすべて他所へ移転し、駅前通りがますます寂れてしまう恐れがあったことから、町並みを維持しつつ、地域にあった道路空間づくりを目指すことを目的に、2013（平成25）年度に、当時大分県庁の職員であった二宮仁志氏（現東洋大学准教授）をコーディネーターに迎え、大分県職員と市役所職員が協働で「まちづくり研究会」という勉強会を立ち上げた。

### 3. 「ぶんごおおの未来カフェ」の活動

県と市の職員が一緒に、駅前通りの課題について調査を進めていく中、まちづくり活動を持続的に展開していくためには、市民との協働によるまちづくりが欠かせないと判断し、2014（平成26）年度から、まちの未来について、検討・提案・実践を試みるまちづくり活動を、継続的に展開しネットワークづくりに取り組むことを目的とした市民会議「ぶんごおおの未来カフェ」を立ち上げた。会議では、堅苦しいイメージの会議ではなく、お茶を飲みながら世代や立場を超えてまちの未来について気軽に話し合える場と、その中で、まちの魅力や課題を共有し、互いの考え方の違いに気づき、知恵を出し合い、学びあうことを大切にしながら仲間づくりと組織づくりに取り組んだ。メンバーは高校生から80代まで幅広い年齢層、様々な職業の方（学生、会社員、自営業、町内会、PTA、NPO等）に加え、市職員もファシリテーターとして参加し議論を重ねた。



写真2：「ぶんごおおの未来カフェ」活動の様子

2015（平成27）年10月には、第1回目となる社会実験「歩行者天国」を三重町駅前通りで開催、2017（平成29）年3月には三重町駅前広場や駅前通りについて提言をまとめた「三重町駅前周辺まちづくり基本計画」を策定し市長に提言した。

2017（平成29）年度からは、提言書に基づき、駅周辺の整備や「みえまちホコ天」や「みえまち夜市」といったイベントを通じ、賑わいづくりを市民会議主体の活動として継続的に取り組んでいたが、駅前通りの一方通行についてのアンケート結果は賛成・反対がほぼ同数であった。



写真3：みえまちホコ天の様子

#### 4. 官民高大連携の取組み

こうした状況もあり、2020（令和2）年5月より、豊後大野市立地適正化計画策定にあわせ、駅前通りの将来像の検討や地域課題の解決に、未来を担う次世代の意見を取り入れるため、調査研究事業に取り組んだ。事業には、2009（平成21）年より市地域公共交通の各種委員であった大分大学経済学部大井教授と都市計画審議会委員である同大学理工学部の姫野助教とそれぞれの研究室の学生、それに地元の県立三重総合高校メディア科学科の秋月教諭と高校生9名による課題研究グループに協力をいただいた。

新型コロナウイルス感染症の影響で、高校や大学で、休校や対面授業が進まない状況であったが、生徒と学生とが勉強会やフィールドワーク、沿線住民へのヒアリング調査を重ね、2020（令和2）年11月には公共空間の使い方と歩道幅員に関する社会実験として歩行者天国を市民会議「ぶんごおおの未来カフェ」と協働で実施した。

##### 4-1 歩行者天国での取組み

当日は、2つのグループに分かれスタンプラリーとアンケートに取り組んだ。駅前側のグループは、一方通行となった場合の「歩道幅員」に関する調査を行い、もう一つの班では、市民が求める公共空間の利活用の方法を把握するために「新しい空間の使い方」に関する調査を行った。アンケートはボードに一人一枚シールを張り付けて投票する方式をとり、様々な年齢層の来場者に回答してもらった。歩道幅員の実験では、道路に車を2台とバスを1台それぞれ停め、道路脇に人工芝マットを敷くことでそれぞれの幅員を実際に体験できるように構成した。バスは歩道幅員を視覚的に体感できるためだけでなく、交通を身近に感じてもらうことを目的に実際にバスへの乗車や整理券発行を体験できるように展示をした。また新しい空間の使い方に関する実験では、けん玉やボウリングなどのレクリエーション付近の道路わきにスタンドテーブルを数台設置し「寄りかかって休む」体験、屋台付近や道路中央にガーデンテーブルセットを設置することで「椅子に座る」体験、道路に人工芝マットを敷き、その上にローテーブル

やテント、ぬいぐるみを設置して「座り込む」体験をしてもらった。



写真4：歩行者天国での社会実験の様子

##### 4-2 意見集約

イベント参加者から様々な意見が寄せられたが、「現在の2車線両側歩道では幅員が足りず歩行者が危険だ」という意見がある一方、「一方通行になると

交通の利便が悪くなる」とそれぞれ立場によって違う意見を改めて聞くことができた。

調査結果に基づき、グループワークを行った結果、1車線両側歩道の方が歩行者、運転者の危険を取り除くことができることに加え、空間の利用につながるため優れているという結論に至った。



写真5：意見集約関係者集合写真（大分大学姫野助教と姫野研究室、大井研究室、三重総合高校、市役所関係者）

#### 4.3 市長への提案

2021（令和3）年1月には高校と大学の関係者が一堂に集まり市長との意見交換を行った。学生からは「2車線のままでは歩行者と車が入り乱れ、双方にとって危険」、「1車線にすると歩道が広くなり、市民の憩いの場として使える」といった意見や「通りにベンチを設置したりすることが可能となり、賑わいの創出につながる」など様々な視点から意見がだされ、最終的には「駅前通りは1車線化による歩行空間の確保が望ましい」と提案した。

#### 5. おわりに

これまで多くの方々と一緒に三重町駅前通りの未来について様々な議論してきたが、2021（令和3）年2月8日に開催した市都市計画審議会において、三重町駅前通りについては、現在の道路幅員のまま、車線を減らして歩道を設けることを目的に、現在の2車線（片側1車線）から1車線とする計画案について、全会一致で承認され、市長に答申された。

これから駅周辺では、県道高市停車場線の改良工事や駅前広場の整備が進んでいく。また、車線数の減少に伴い、生活上の不便が生じることから、近くに新しい道路の整備も計画されている。審議会では委員から「道路整備だけでなく、商業振興も一緒に取り組み、活性化につなげてほしい」との意見も出された。これからも、よりよい駅前通りとなるよう、市民をはじめ多くの関係者が連携したまちづくりを目指していきたいと考えている。

1) 当初決定 1950（昭和25）年、最終決定 1973（昭和48）年。都市計画道路駅前線は県道三重停車場線であったが、2020（令和2）年に市道管理となり、市道三重駅前線となった。

#### 参考資料

- ・三重町駅周辺まちづくり基本計画提案書
- ・高大連携による地方都市中心部の「公共空間」づくりに関する考察  
—大分大学経済学部大井研究室グループ研究論文—

#### 2020（令和2）年度事業 協力

- ・大分大学理工学部 姫野由香助教、建築・都市計画研究室  
大学院生：古海裕美子、指方綾乃、宮下達平、NGUYEN THI HUONG GIANG  
学部生：高見菜月、松倉光希、轟木龍介、佐々木美折、横田彩夏
- ・大分大学経済学部 大井尚司教授、経営システム学科交通論研究室  
尾本悠樹、梶田紀佳、後藤孝祐、佐藤芹香、中島優斗、福田真咲、岡将平、笠原義朗、河野泉、佐伯琉圭、友田龍太郎、濱渦連
- ・三重総合高校メディア科学科 秋月大輔・秋月課題研究グループ  
石田泰佑、衛藤海、庄ゆかり、城基槻、稗田省吾、藤原遙希、三浦智也、宗像和佳、武田智樹
- ・市民会議「ぶんごおの未来カフェ」

（2021年3月入稿）